

非核三原則「持ち込ませず」をめぐる論点

2026.08.05 国会議員討論会「被爆81年 日本の選択を問う」

浅野英男

議論の前提

- 米国は、海洋発射型核巡航ミサイル (nuclear-armed sea-launched cruise missile: SLCM-N) を開発中。2034年9月までに初期運用能力 (initial operational capability: IOC) の獲得、ミサイルの一部を先行して2032年9月までに限定運用配備 (limited operational deployment) が目標¹
- SLCM-Nが配備されれば、日本に寄港しているヴァージニア級攻撃型原子力潜水艦に配備される可能性が見込まれている。また、2025年12月、トランプ大統領が新たな「トランプ級」戦艦を開発し、SLCM-Nを配備すると発表
- 「現状において」は、そもそも日本に寄港しうる米国の核搭載船は存在しない

論点①: SLCM-Nはそもそも配備されるのか？

- 米国内ではSLCM-Nをめぐり反対論もある(参考1)
- SLCM-Nの配備(早くて2032年)の前には、米国大統領選(2028年)があり、政権交代の可能性もある(参考2)

論点②: 日本の安全保障や外交にとって、米国のSLCM-N配備や核搭載船の寄港は望ましいか？

- SLCM-Nの最大の目的は「地域レベルの核抑止力強化」と「同盟国の安心」のため
 - ▷ 米国の判断に一任するといった態度でなく、日本が主体的に意見すべき問題である
- SLCM-Nのリスク
 - いわゆる低出力核なので、地域で核が使用されるハードルを下げる可能性がある
 - 通常兵器の巡航ミサイル(例えば、米国製トマホークなど)と見分けがつかず、誤認による核戦争のリスクを高める
 - 周辺国のさらなる核増強を促す
- 寄港を認める＝「持ち込ませず」をめぐる立場を変更するリスク
 - 有事の寄港はエスカレーションを招き、日本への武力攻撃リスクも高める
 - 現在の日中関係のなかで非核三原則を見直せば、さらなる対中関係の悪化を招く

論点③: 仮にSLCM-Nが配備されたとしても、米国は日本への寄港を必要とするのか？

- 米国の文書から
 - 「...SLCMは、抑止力を提供するにあたり、ホスト国による支援を必要とせず、またそれに依存することもない」(2018年核態勢見直し、54頁²)

¹ SLCM-N開発の進捗および論点については、米国議会調査局(CRS)のレポートを参照。

https://www.congress.gov/crs_external_products/IF/PDF/IF12084/IF12084.14.pdf

² <https://fas.org/wp-content/uploads/media/2018-Nuclear-Posture-Review-Version-2.pdf>

- 「海洋に配備されることで、これらのシステム(筆者注:SLCM-N)は、同盟国に配置やサポートのための追加的な負担を課さない」(国務次官(軍備管理・国際安全保障担当)オフィスによる文書、2頁³⁾)
- 「SLCM-Nが配備されても日本には寄港しない」という選択肢
 - 日米で協議・交渉し、SLCM-N搭載艦船が日本に寄港する必要がない(しない)ことを確認したうえで、米国が「日本の非核三原則を尊重する」との一般的な声明を発表することは可能ではないか

参考1)米国内のSLCM-N不要論⁴⁾

- 核抑止が必要との立場に立っても、既存および開発中の他の核戦力⁵⁾で十分である
- SLCM-Nの配備は、米海軍の運用をきわめて複雑にする。また、より必要性の高い他の防衛力の開発や配備を犠牲にする(コストや人員面でのトレードオフ)

参考2)SLCM-N開発に関するこれまでの経過

- SLCM-Nの開発は第一次トランプ政権下でスタート。その後、バイデン政権は開発中止を要請したが、米国議会が開発継続を決定。第二次トランプ政権下で開発がさらに進んでいる。

³⁾ <https://www.state.gov/wp-content/uploads/2020/07/T-Paper-series-SLCM-N-Final-508.pdf>

⁴⁾ SLCM-Nの必要論と不要論については、Hideo Asano “The SLCM-N and Japan’s Three Non-Nuclear Principles,” The Asia-Pacific Leadership Network, August 27, 2025, pp.12-14, https://cms.apln.network/wp-content/uploads/2025/08/Asano-PB-SLCM-N_August_2025.pdf を参照。

⁵⁾ 米国は、他の低出力核オプションとして、空中発射型核巡航ミサイル(ALCM)や海洋発射型弾道ミサイル(SLBM)などを配備。新たな空中発射型「長射程スタンドオフ(LRSO)」巡航ミサイルも開発中。Hans M. Kristensen, Matt Korda, Eliana Johns, and Mackenzie Knight-Boyle, “United States nuclear weapons, 2026.” Bulletin of the Atomic Scientists, 82(2): 119-150, March 2026, doi: <https://doi.org/10.1080/00963402.2026.2633029> を参照。